



国指定伝統的工芸品
川辺佛壇

写真提供：鹿児島県川辺仏壇協同組合



～伝統で未来を開く～

鹿児島県川辺仏壇協同組合 設立 祝 80周年

鹿児島県川辺仏壇協同組合が設立されて、今年度で 80 周年を迎えます。

南九州市川辺町は全国屈指の金仏壇・仏具の産地で、川辺仏壇は昭和 50 年には通商産業大臣（現・経済産業大臣）により伝統的工芸品として指定を受けました。

そこで、今回は組合設立 80 周年を記念して、組合や川辺仏壇のこれまでの歴史などを紹介します。

川辺仏壇とは

川辺仏壇とは、川辺町内で加工された材料を使用し、川辺町内において製造、生産された仏壇で、経済産業大臣により指定された伝統的工芸品です（伝統的工芸品を証する「伝統証紙」や、「地域団体商標登録認定証紙」が貼り付けられています）。今日では全国に販路を持ち、生産の約 8 割が全国に出荷されています。

▼伝統証紙



▲地域団体商標登録認定証紙

川辺仏壇の歴史

川辺地域は古くから仏教の盛んな土地で、清水磨崖仏など仏教にまつわる多くの史跡が残っています。

島津藩主の一向宗禁制(1597年)による弾圧や廃仏毀釈(明治2年)の法難により、仏像や仏具は消失しましたが、信仰は根強く残り、洞窟などに隠れて布教する「隠れ念仏」が行われ、隠し持つのに便利のように、見かけはタンスのようで、扉を開けると金色さんぜんとした小型の仏壇が隠されたものが作られました。

鹿児島県では洞窟のことを「ガマ」と呼び、川辺仏壇ではガマという型（ガマ型）のものが作られ、その仏壇には「隠れ念仏」の頃の要素が色濃く残っているとされています。

川辺仏壇ができるまで

川辺仏壇は、製造工程が完全に分業体制で、「木地」、「彫刻」、「宮殿（くうでん）」、「金具」、「塗り」、「蒔絵（まきえ）」、「箔・仕上げ」の7工程に区分されています。各工程のほとんどが職人の入念な手作業により、細部まで技術が施され、部品の組立に工夫があり、分解しやすいことが特徴です。木地の材料は、杉・ヒノキ・松などが中心で、天然黒塗りの後、純金箔を押して仕上げる豪華さと堅牢さを併せ持った仏壇となっています。

写真提供：鹿児島県川辺仏壇協同組合



①木地
木を組む・削る。



②彫刻
木を彫る・刻む。



③宮殿（くうでん）
木で宮殿（くうでん）を造る。



④金具
金属を曲げる・叩く・切り出す。



⑤塗り
漆を塗る。



⑥蒔絵（まきえ）
絵を描く。



⑦箔・仕上げ
金箔を貼る・組み上げる。

鹿児島県川辺仏壇協同組合

■ 組合の概要（平成29年1月1日時点）

理事長：原口 和秋
所在地：南九州市川辺町平山 6140 番地 4
設立年月：昭和 11 年 3 月

■ 組合加入事業所

(有) 久保仏具店	吉留(俊)仏壇店
(有) 瑞光堂	川原昇仏壇
(有) 滝山仏壇店	室屋仏壇製作所
(有) 射手園仏壇店	瀧山仏壇製作所
中菌仏壇店	(有) 橋口仏壇製作所
有菌(利)仏壇店	外菌仏壇製作所
福元仏壇商会	(有) 木原金属工芸社
(有) 古市美人仏壇店	(有) 河村金具製作所
(有) 川原清治仏壇店	(有) 木原製作所
(有) 大阪屋仏壇店	仏壇の金光堂
池田仏壇店	田中仏像彫刻工房
岡田仏壇製作所	(有) 西彫刻製作所
(有) お仏壇の仏心社	創作工芸
(株) とどろき	宮殿工房駒水
(有) お仏壇のありた	外菌蒔絵店
(有) 垂水佛光堂	川原美術工芸
上塩入漆工	外菌仏壇蒔絵店
瀧山仏具	永野仏壇工芸所
大坂良久仏壇店	下菌美術工芸所
神菌仏壇店	

■ 組合の沿革

昭和 11 年 3 月
川辺仏壇組合設立（任意組合）

昭和 18 年 6 月
鹿児島県仏壇工業組合に名称変更

昭和 22 年 2 月
鹿児島県宗教用具商工業協同組合設立（法人登録）

昭和 50 年 5 月
伝統的工芸品として業界初の通商産業大臣指定を受ける

昭和 62 年 7 月
皇太子ご夫妻川辺仏壇・製作実演行啓視察

平成 2 年 7 月
秋篠宮ご夫妻川辺仏壇・製作実演行啓視察

平成 4 年 3 月
川辺町新製品開発事業「御所車」完成引渡

平成 19 年 3 月
地域団体商標「川辺仏壇」認可

平成 19 年 11 月
伝統産業振興の功勞により経済産業大臣表彰受賞

平成 21 年 7 月
JR九州新幹線「新 800 系つばめ」車内工芸品装飾工事受注

平成 23 年 2 月
「本場大島紬組合」「薩摩焼組合」との合同展示会開催

平成 24 年 7 月
東日本大震災被災地へ小型仏壇 100 基寄贈

平成 27 年 5 月
ノーベル物理学賞受賞の赤崎勇氏への記念品「神輿」を受注・引渡

平成 27 年 11 月
国民文化祭（鹿児島）で仏壇などの工芸品を展示販売

平成 29 年 1 月
伝統的工芸品展示用ショーケース設置（鹿児島中央駅）



▲ 赤崎勇氏への記念品「神輿」

■ 川辺仏壇工芸会館



組合の活動拠点となる「川辺仏壇工芸会館」が3月より開館しました。

この施設では、商品の見学や、蒔絵の絵付けなどを体験することができ、川辺仏壇や仏壇づくりの高い技術を広く発信する拠点としても期待されます。

設立80周年を迎えた今、時代の流れで人々の生活様式は大きく変化し、価値観が多様化していることを強く感じております。そのような中、より良い仏壇をつくり続けるだけでなく、7工程の技術を活用し、時代や生活様式の変化に合った新商品開発にも挑戦し、技術の高さをより多くの方に知ってもらおうと、川辺仏壇の価値を高め、これからは伝統工芸技術が存続できるように尽力してまいります。

今後皆様のご支援ご協力をよろしく願っています。



鹿児島県川辺仏壇協同組合
理事長 原口 和秋 さん

仏壇をつくる「七つの技」が新しいものを生み出す



宮殿

くうでん



彫刻

ちようこく



蒔絵

まきえ



木地

きじ

写真：田村孝介

「手練(しゅれん)」とは、「熟練した、見事な手並み。練習し練れること」を意味する言葉。伝統的工芸品である川辺仏壇をつくり続け、それぞれの職人が守り継いできた「木地」、「彫刻」、「宮殿」、「金具」、「塗り」、「蒔絵」、「箔(仕上げ)」の7つの技で、新しいものづくりを目指す川辺手練団が昨年から発足しました。川辺手練団は他のクリエイターやデザイナーとの協働を積極的に行い、伝統の職人技で、時代の流れに対応し人々の日常の暮らしに寄り添ったものづくりに挑戦しています。

時代に求められる新しいものを生み出す伝統技術の輝きで、より多くの人が仏壇のある暮らしに目を向けてくれることを願いながら…。



箔

(仕上げ) ぱく



塗り

ぬり



金具

かなぐ



川辺手練団

KAWANABE SYUREN DAN



川辺手練団
団長 永野一彦さん

大切に引き継がれてきた仏壇づくりの技術で、新しいものづくりに挑戦する『川辺手練団』プロジェクトが昨年より始まりました。

今回、他のジャンルのデザイナーやクリエイターと協働することで異なる観点から仏壇づくりの技術が応用され、自分たちの想像を超える新しいものをつくることのできたと感じています。

2月1日から3日にかけて開催された東京ビックサイトでのギフトショーに『川辺手練団』として参加しましたが、さまざまな種類の製品が並べられた会場は華やかで来場者の反響が大きく、仏壇づくりの技術の高さを知ってもらうとともに、自分たちの技術に自信を持つことができた良い機会となりました。来場した販路コーディネーターから「漆塗りの金箔が押してある日本製品は海外での評価は高い」と、国内だけでなく海外も視野に入れた販路拡大の可能性も聞かされ、『川辺手練団』を通して自分たちの力だけでは届かなかった新しい世界を見ていることを実感しています。

『川辺手練団』という新しいブランドを展開することが、これからの自分たちには大切だと強く感じました。『川辺仏壇』という伝統的工芸品を守りつつも、新しい挑戦を続けていきたいと思えます。



川辺手練団のロゴ

川辺の“川”の字や仏壇をイメージさせる川辺手練団のロゴ。仏壇づくりの7つの技も表しており、川辺手練団の製品に押されています。

川辺手練団の製品

川辺手練団の製品は、伝統を一步踏み出した試みやデザインに挑戦し、長く愛されるものとなるよう機能的であることも強く意識しています。

※()内は製品に用いられている仏壇づくりの技

※各製品は、川辺仏壇工芸会館に展示してあります。

[問] 鹿児島県川辺仏壇協同組合 ☎0993-56-0240



スピーカー(木地・塗り・金具・箔)

写真: 田村孝介



蝶番式シェードランプ(金具)



フレーム神棚(木地・塗り・仕上げ)



純銀製バンゲル(金具)



キャリーコンテナ(塗り・金具)



印伝仕様の革製小物入れ(蒔絵)



フレーム飾り棚(木地・塗り・金具・仕上げ)

フレームキャビネット(木地・塗り・金具・仕上げ)

